

と、この糞虫に関心のないことによって真の意味の日本における産出状況、分布状況がよくわからない種の1つではないかと考えられる。現在の分布として本州、佐渡、朝鮮半島、中国、台湾があげられる(越智, 1985)。日本以外の状況はともかくとして、日本では現時点で確実に産するといったところがほとんど知られていない。かつて、摩耶山麓に多産した記録はあるが、現在の産出は無理と考えられる。奈良の奈良公園、春日山、高円山などにはごく最近までは多くいたようであるが、ここ十数年来いるといった情報をほとんど知らない。全く産出状況がわからない。一般にいると云った記録は簡単ではあるが、いなくなったとは軽々には云えないように思う。

どちらにしても日本産としては大変特異な珍しい糞虫の1種である。

(追記)

脱稿後(1994年12月)、松江の淀江賢一郎氏から次の文献のコピーを送って頂いた。即ち、

近木英哉(1964) 島根県の昆虫目録Ⅲ 鞘翅目(コガネムシ主科) 島根農科大学研究報告(12A): 24-31.

その中、p.25に"11. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ VI: 三瓶山"の記録があった。山陰地方からの本種の記録としては

唯一のものと考えられる。大変貴重な記録である。現在どのような状況なのか興味があるし、調べてみたいものである。

この文献コピーを送って頂いた淀江賢一郎氏に厚くお礼申し上げます。

さらに、1994年11月大阪のS社から北朝鮮の糞虫類を入手した。或いはヤマトエンマコガネがはいっていないかと、エンマコガネ類のセットとして30exs.送ってもらったものの中に、やはりヤマトエンマコガネが1♂♀いた。北朝鮮で別に意識して採集されたものではなく、ただ糞虫として採集したものを無作為に糞虫セットとして購入した、その中にこの種を見いだすことができたことは、この採集地(冠帽峰成境北道、北朝鮮北東部 3~6. VII. 1994)あたり北朝鮮には広く分布している種なのかもしれない(塚本珪一氏も朝鮮半島経由で入ってきたものであろうとされている。1986)。

なお、最後になったが筆者自身奈良公園あたり何度か採集に行ったが本種の採集はない。戦前住吉におられた故米谷正司氏宅で同氏が奈良公園で採集された多くの標本を見せて頂いたことがあり、そのうちの1頭貰い受けて保管していたが、この標本も現在、人と自然の博物館の保管となっている。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

イシガケチョウに注目

南国の蝶イシガケチョウは、近年北に分布を拡大しています。岡山県をフィールドとする難波通孝さんは、1994年の初夏から初冬にかけて、岡山県南部で羽化したイシガケチョウが北に分布を拡大していく様子を明らかにされ(1994, イシガケチョウの飛翔 難波通孝著)、調査の過程で区域を兵庫県から福井県まで広げて、福井県まで分布を拡大していることをつきとめられました。

兵庫県内では、大屋町から朝来町を結ぶラインを北限として、第2化の幼虫、蛹が確認されます。県南部では、第1化のイシガケチョウがイヌビワ、イタビカズラや庭のイチジクで発生している可能性が大いにあります。イシガケチョウの情報をお寄せ下さい。

(編集子より)